

環境教育の現場から <その4>

グラウンドワーク三島

グラウンドワークとは

グラウンドワーク (Groundwork) とは、1980 年代に英国で始まった実践的な環境改善活動のことで、住民が行政や企業とパートナーシップをとりながら、地域の環境改善活動を実施する。従来の行政主導の手法ではなく、住民が積極的に参加するとともに、企業が地域社会への貢献等の観点から参画し、三者が協力して、自らの環境や社会をより豊かにすることを目的として、地域の環境整備の実施等の活動をする。

グラウンドワーク三島について

特定非営利活動法人グラウンドワーク三島 (以下、GW 三島) は、日本で最初に英国のグラウンドワーク手法を導入して、富士山からの湧水が減少して環境悪化が進行した「水の都・三島」の水辺自然環境の再生と改善を目的として、市内 8 つの市民団体が中心となり、三島市や企業の協力のもと、1992 年 9 月に事業をスタートし、現在では 20 の市民団体が関わっている (1999 年 10 月に NPO 法人格を取得)。

現在までに、ゴミ捨て場化した川の再生、絶滅した水中花・三島梅花藻 (バイカモ) の復活、古井戸・水神さん・湧水池の再生、ホテルの里づくり等、市内 50 ヶ所以上で具体的な実践活動を展開している。

環境再生から地域再生、人材育成へ

GW 三島は市民、NPO、企業、行政とのパートナーシップをコーディネートして、市民参加の環境改善活動を積み重ねてきている。このような実践的な活動の成功が、視察者や観光客の増加につながって、環境再生から地域 (経済) 再生へと拡大しつつある。またインターンシップ制度等による人材育成事業にも着手している。

GW 三島の環境教育活動

環境教育に関しては、地域の子供たちや市民等を対象とした自然観察会やエコ・スタディーツアーを実施したり、学校ビオトープの整備、小中学校における「環境出前講座」を行っている。特に子供たちを対象とした環境教育は、次世代の人材育成とらえて力を入れている。スタディーツアーや環境出前講座では、源兵衛川を始めとした活動実践地を紹介したり、環境教育の場として活用していて、より身近でわかりやすいものとなっている。また、環境教育の教材としては、源兵衛川生き物観察ガイド等のガイド冊子や「バイリンガル環境かるた」等を作成している。

Think globally, Act locally

GW 三島の活動は、ゴミや生活排水等で汚染されてしまった市内最大の湧水河川「源兵衛川」の再生が始まりとなっている。このように地域に根差したテーマであったことから、地域住民にとっても身近でわかりやすく、成果も見えやすい活動であった。

『地球環境問題』のように問題が大きすぎると、一般市民はどうしたら良いのか、取り組み方がわからない場合もある。GW 三島の活動は“Think globally, Act locally”の具体例を提示して、地球規模の環境問題を身近な環境問題として取り組むことに成功した事例ともいえる。

今後はこうした具体的、個別的な取り組みが、全体的な環境問題を解決する上で、どのような位置にあるのかの把握も必要となるだろう。また GW 三島の行っているような「眼に見える」日常的な活動が、学校における環境教育と連携することで、特に「気づきを行動に変える」という面から、子供たちに対する環境教育としての効果をさらに大きくすることにつながっていくのではないだろうか。



よみがえった源兵衛川を歩く



整備された三島梅花藻の里



「バイリンガル環境かるた」